



信じたことを
実践し続けていれば
出会いや縁には恵まれる。

大工池上
つくり手インタビュー 第二十五回
池上算規さんに聞く



棄てられていた木と 現場の土を使ってつくった最初の家。

我が家の増築工事の様子を見ていて、「こんな家を、できれば地元の木で建ててほしい」と言ってくれる人があらわれました。嫁さんの友達です。現場は小江原という長崎でも山沿いのニュータウンだったのですが、予定地のすぐ近くに、なんと杉が20本ほど棄てられている！のを見つけてね。台風で倒れそうになっていたのを伐ったのが、そのままになっていたんです。

「これ、赤身だけなら使えるな」と気になって、その土地の持ち主に交渉してみたら「片付けてくれるんなら、タダでもっていいよ」と言われてね。ちょうどそのタイミングよく九州に来ていた徳島の和田善行さんに木を見てもらって、使える分は柱や梁をまかない、足りない分だけ和田さんに材料をお願いしました。救った分の中には百年生以上の年輪の詰まったのもあって、それを無駄にしないで使うことができたのはうれしかったですね。

現場の隣に作業小屋を作るために土地を借りたんですが、整地してみたらその土にすこく粘りがあるんです。で、土壁に使えるかも？と思いついて、田んぼをやっている知合いから軽トラッケー台分の土と、古い家を解体した時に出土壁の古土をもらい、土壁の材料にしました。家づくりを通して、その場にあるもの、捨てられていたかもしれないものを活かすことができた時は、喜びもひとしおです。丹呉さんの設計で、大工塾のみんなに手伝ってもらって上棟しました。

お施主さんと約束したお金や時間の中で、実現可能性を見いだす。

その家を見た人から、こんどは宮崎でも、和田さんの木で建ててくれ、と頼まれてね、それも一生懸命やりました。それこそこの仕事を「これが最初で最後かも」という気持ちで臨み、思ってきたことをとことん、やりました。で、持ち出ししまった部分もあります。「こんなものつくってちゃ申し訳ない、自分じゃ住みたくないなあ・・・」と思いながら作って来た家づくりと、「こういう家にしたい！」ということを追求めてつくる家では、同じ家づくりでも、全然違います。追求する仕事はやりがいがあるけれど、とことんやってしまうので、こちらの生活がそれで成り立つか、ということであろうと、きびしいんです。

お施主さんとは「これだけの予算で」ということを最初に契約しています。それが、やっていくうちに自分の中で「ここまでやろう」ということで手をかけていく。よけいに時間をかけた分の大工手間は、自分の持ち出しになるのはもちろん、人に頼んで仕事してもらっていたら、身銭を切って支払うことになってしまいます。結局、よりよいものを求めるあまり、自分で自分の首を締めるように時間をかけてしまったりするんです。

そんなことばかりしていたら、続かない。いいものをつくりたい、という気持ちと現実の時間やお金の枠。そのギャップをどうやって埋めて行くか、ということが当面の課題です。「予算がこれくらいなら、この程度でいいか」という風にはどうしても思えない。だったら、なんとか折り合いをつけながら、していかなければいけない。そのための努力や工夫がいるんですよね。



大村の家 設計：丹呉明彦

どうやったら仕事の質を下げずに うまくまわしていけるんだろうか？

経験を積んで行くうちに、手が早くなる部分もあるし、これだけのことをやるにはこれだけの工数がかかる。だから、大工手間はこのくらい、という読みもできてきます。きちんと仕事していけばどうしても、これだけの時間はかかる。そこを最初から読めないといけないです。そこを読んだ上で予算が足りない、ということであれば、家の規模を少し小さくするか、どこかを思い切って省くとか、そういうことを事前にお施主さんと話してうまく合うようにしていかなきゃいけないんですよね。そこはまだまだ勉強中です。

プレカットには出たくないです。でも、自分の工場で電動工具をうまく使って効率化をはかるということについては、まだまだ研究の余地があると思っています。何から何まで手刻みで、となれば、膨大な予算が必要か、あるいは持ち出しをするかになってしまいます。ここまでは機械を使って短時間でやる、ここからは自分の手できっちり仕上げる、伝統構法をやっいて、そこそこの数をまわっている工務店では、そういう使い分けがきちんとできていますね。そうなりたいなと思いますよ。



最近よく、リフォームを頼まれます。悩みますね。頼んでくれる人は自分の暮らして来た家を「ゴミにしたいから」という思いで相談しにきてくれるのですが、「何年もちますか？」と言われて口ごもってしまうような脆弱なつくりであったり、身体によくない、後でゴミにしかならない新建材が使われていたりすることが多いんですよ。特に長崎は、家がみんな原爆で破壊されつくしていますから、戦後、とにかく効率優先で建った文化住宅ばかりなので・・・。

新建材だから、材が細いから「さあ、建て直しましょう」というのも、ゴミをつくる家づくりになってしまいます。本当は建て直した方がいいんだけど、住まい手の「まだ大切にしたい」という思いが強く、その家族が直して住み続けることを選んだ場合には、できる限りの補強や改善をしながら、気持ちよく安心して住み続けられるように直します。

してきた仕事が 次の縁や新たな出会いを生んでくれる。

宮崎の家を見た方から、大村で一軒頼まれ、またその仕事が雑誌「チルチンぴと」に載ったことが縁で、こんどは「長崎の木で家を建てたい！」という人があらわれてくれました。その時は大変でも、納得いくようにつくった家は、確実に次の縁を呼び込むんです。

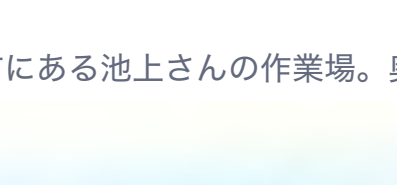
思いをもってやっていくうちに、夢見ていたことがどんどんかばっていくという不思議を、ぼくは向こうから経験しています。したい仕事も、いい弟子も、みんな向こうからやってくるんです。今いる子は、長崎大学の環境科学部出身。自然農を教える奈良の川口由一さんのところで住み込みで学んだ子なんです。が、その時に住んでいた古い家を修理した経験がきっかけになって、大工をやりたくなった、と言って、来てくれたんです。ありがたいことです。

次の夢は、新しい作業場の完成と 長崎での大工のネットワークづくり！

長崎市の隣の大村市に土地を求めて、まずは自分の思うような家づくりのための材料をストックできる広さのある工場をつくりはじめています。海とその向こうの半島が見える、とってもいいところ。地元の木を使って、伝統構法で家づくりをしたい、その思いを訴えたら、銀行でお金を貸してくれました。いずれ、自宅も工場の隣に建てようと思っています。これまでと同じように、その時その時は精一杯で苦しいけれど、それでも少しずつ自分の思う方向に夢はかなえていけると思います。

「いやなことはやらない」というだけで続けて来たことで、それがここまで自分を連れて来てくれました。

あとは地元で仲間づくりをしたいです。長崎の大工さんたちに仕事してもらおうもあるんだけど、「たしかにすばらしい仕事だけど、自分じゃここまでやらない、やれない」という反応しか、まだかえってこない。横のつながりが生まれるといいなと思ってるけれど、それもきっとこれから、なんでしょうね。これまでどおり、あまり後先考えず、今できることをまっとうしている以外、そのうちに必要なことは舞こんでくる！そう信じているからです。いずれ長崎に、大工同士、そして大工以外にも一般の方もいっしょになって、環境のことをトータルに考えた木の家づくりのグルーブをつくりたいと思っています。



大村市にある池上さんの作業場。奥に見えるのは大村湾。この脇に自宅を建設する予定。



関連する記事はこちら



製材・鈴木禎一さん(あさひ製材：山の木と住むとの縁結び



第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会



里山循環大工：池山琢馬 (一峯建築設計)



3.11後を生き抜くコミュニティの力 杜鹿半島 福貴浦より



国産材時代到来か？ 最新動向を検証



近くの山の木を
もっと身近に！
〜長崎県産材100%の家。

大工 池上 算規さんについて 第二十五回

1 2 3 4

Like 0

% ポスト

「野菜だって、家に使う木だって、
身土不二がいい」(野田)



野田さん

私は、神戸で震災に遭っているんです。だから、家にお金かけても地震でつぶれてしまうんではしかたない、地震に遭っても住み続けられる家でない、という気持ちがありました。たまたま四国の木の家の設計をしている友達がいて、相談ののってもらったら「ほんとに地震に強いのは、木を竹かごのように組んでつくった、伝統的な木の家なんだよ」ということをはじめて聞いたんです。

仕事で産直野菜の宅配をしているので、普段から生産者との顔の見える関係とか、なるべく地元で穫れたものを大事にする「身土不二」という感覚があるので、「木の家を建てるんでも、地元の木材がいいよね」と思い至りました。でも、そういう家づくりを、どこに頼めばいいの？となると、どうしていいか、まったく分からないんですね。

どこかにそういう人がいたとしても、どうやったらそういう人

が見つかるか分からないし、伝統的な木の家をつくってる大工

さんなんてほんのちょっとしかいないだろうし、いたとしても頑固そうで、私たち庶民には手の届かないような高い家になる

んだろうな・・・と漠然と思ってました。そんな時、たまたま買った「チルチンびと」に載っていた池上さんの記事を見た

んです。



大村市に建つ野田邸。前ページの池上さんの作業場の、すぐ近くに位置する。第十回長崎県木造住宅コンクール優秀賞受賞。

「うわ、四国の友達が言ってたのとおんなじこと言ってる！、しかも長崎にいる！」というのがまず驚きでした。どうしよう・・・夫婦で話し合いました。そして、「なんば高くても、頑固な人だとしても、いちは会わないかん、かなわないことならば納得して諦めればいいんだから」という決意で、池上さんに連絡してみました。お会いしてみたら・・・想像とちがって、とても話しやすい方で、驚きました。野菜のたとえでいえば「なにがなんでも完全無農薬でないダメ」というようなキビシイ感じの人ではない。話しているうちにだんだんに完全無農薬、という方向に行きはするんだけど、お金のこともなんか柔軟に考えて、できることは譲歩しながら、現実実現できることをいっしょに考えられる人。で、迷わず、池上さんとの家づくりを決断しました。

「すべて長崎県産材でまかなうのに
ルートづくりから入りました。」(池上)

「近くの山の木で」という希望は、まさにばく自身が手がけていきたいことでした。それまでつくってきた新築の家は、小江原の家に現場近くに棄ててあった材を一部使った以外は、ばくが師を仰いでいる徳島の和田さんの杉をずっと使ってきたんです。「地元の木を」という気持ちはあったけれど、具体的にはまだその一歩を踏み出してはいなかったんですね。

和田さんが長年の努力を経て切り拓いて来られた、山の杉を建築に直接使えるようなルートは、長崎にはまだないんです。野田さんとの家づくりは「ツテはないけれど、地元の木を使う方向を切り拓いていこう」という冒険になりました。

まず、山の近くにある製材所にあたってみたんですが「できない」と断られました。「跡継ぎもいないし、やめようと思ってる」と言うんです。そんなに深刻な情況なんか。自分たち大工が使っていかな、とびっくりしました。で、かえて、県産材を使うルートをつくらう、という想いが強くなったんです。

ようやく木を伐って、出してくれる方とめぐりあえたんですが、その方はもう70代、現役を退かれたOB、定年後の仕事としてたまに伐るぐらいで、っというんです。その方が亡くなれば、その後どうなるの？と思うとね、山仕事をされる方が急にいなくなっていく危機を感じましたよ。ばくらが使っていく以外、解決策はないんですね。



伐り出しの現場での記念写真。後列左が池上さん、あとは森林組合の人たち。

木を伐るところも野田さんご家族と一緒に見に行きました。長崎にはめずらしく、吹雪の日でね。ずっと大工をやってきて、木の伐採を自分の目で見るのは初めてのことだったんです。50年生きて来た木が目の前で倒れていくのを見て、「このいのちをいただくんだから、無駄にしちゃいかん」と心底思いましたよ。その木を使った家に住むご家族といっしょにその場にいられたことも、とてもよかったし、山主さんもよろこんでくれました。

三百三十石すべて長崎産材で揃え、使い切りしました。九州の木は徳島の木と比べると成長が早い部分、年輪の感覚が太く、性状がやわやわなんじゃないか、という不安も当初は少し、ありました。和田さんのアドバイスもあって、植材でなく実生で育った目の詰まった木は構造材に、挿し木で育ったものは床板など内装材に、と適材適所で組み合わせることで、その不安も解消できました。

これから家づくりをする人たちには、山の木や伐採現場など、「近くの山の木」のこと、もっと見てもらいたいですね。「木のいのちをいただいて、建てる家なんだから、大切に長く住み続けたい。」という実感を持つ人が増えれば、山も家づくりもよくなっていくんじゃないかと思えますよ。

「池上さんと知恵を出し合って なんとか予算内におさめました！」(野田)



プランを決める際の野田さんの工夫。カレンダーの裏に優先順位をつけて家の各要素について希望を書き出していったり、同じ縮尺で四畳半や三畳といった大きさの紙片をつくり、間取りを検討した。

いろいろなところで池上さんと知恵を出し合って、コスト調整はしましたよ。本当は外も漆喰の壁にしたかったんですが、予算が足りなくてモルタルでも仕方ないかな、とあきらめかけいたら、池上さんから「焼き杉でいきましょう」というアイデアが出てね。焼き杉を外壁に使うのは昔からあるやり方で、表面が炭化してる事で腐食しにくいんだそうです。敷地の土で泥団子をつくって、それを積んたて焼(おくと)、焼き杉のつくて、ご一つと焼きました。自分たちで焼いたし、焼き杉の部分は塗料代もかからないので、けっこう大きなコストダウンになりましたが、それだけでなく、自分たちができる作業を通して家づくりに直接かかわれるのもうれしかったです。

あと、お風呂は木でなくてユニットバス、屋根は瓦屋根でなくガリバリウム銅板にしました。あとは、台所の食器棚なんか、も、ただの棚にして戸はあとからつけよう、ということにした。主人が「1Fと2F、両方にトイレが欲しい」とこだったのをあきらめてもらったというのもありましたね。「お金のないのに！外でしろ〜」「いや、絶対つくる。つくって、おれしかせえへん！」なんて張り合ったのも、今は笑い話のような思い出です。

「冷暖房をあまり使わないで済む家です。」

暖房は、薪ストーブに憧れていたんですが、実際におくとなると曲がり煙突になざるをえないし、費用もかかるとやめました。実際に住んでみると、日当りはいいし、無垢の床材はいつもぽかぽかしていて、ほとんどいらないかったですね。「いらんって言ったばい？」と夫婦でつつこみあったりしてます。

木の家は、「一年中同じ気温で快適」っていう管理された快適さとは違います。冬は冬である程度寒いし、夏も暑くはないことではない、季節でめりはりがある感じですね。けど、前にマンションにいた頃のような「何か空調をつけないと快適でない」とか、床や壁が熱くなりすぎたり冷えすぎたりすることがなくなりまして。冷暖房を使わない日が多いですよ。夏の暑さに関していえば、家の周囲をコンクリートにしないかのも正解だったかもしれません。「犬走りがないだけでも随分ちがいますよ」と池上さんに言われてそうしました。草取りは増えますが、照り返しで暑いのとくらべたらなんてことはないです。もともと私もそんなに神経質にならない性格ですしね！

次ページがギャラリーとなっています

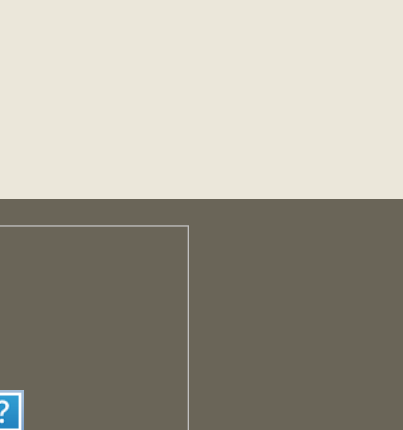
Like 0

% ポスト

1 2 3 4



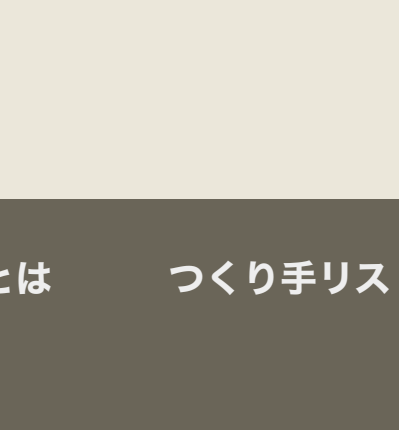
関連する記事はこちら



製材・鈴木祐一さん(あさひ製材)：山の木と住むとの縁結び



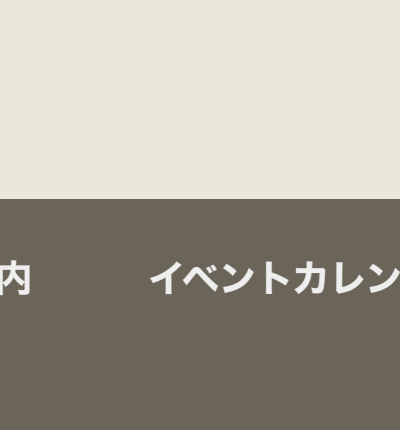
第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会



里山循環大工：池山琢馬(一峯建築設計)



3.11後を生き抜くコミュニティの力 杜鹿半島 福貴浦より



国産材時代到来か？ 最新動向を検証

木の家ネットとは つくり手リスト 特集 入会案内 イベントカレンダー 問合せ

72

地域別つくり手リスト

事務局
〒711-0806
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島倉内
mail : jfmukyo@kino-ie.net
tel : 086-486-5464

北海道	関東(東京以外)	甲信越・北陸	関東	関西	中国・四国	九州
青森県	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
岩手県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
宮城県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県
秋田県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県
山形県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
	関東(東京)	長野県		和歌山県	香川県	
	東京都				高知県	

1234

Like 0

✕ ポスト

gallery

ギャラリー

写真をクリックすると拡大表示されます。さらに拡大写真をクリックすると、次の写真に移動できます。拡大写真を閉じるには、右下のx印か、写真の外側をクリックしてください。

小江原の家



大村の家



長崎香焼の家



大村祝崎の家（野口邸）



Like 0

✕ ポスト

1234

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2015年11月9日
第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会

2015年9月15日
里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）

2015年7月27日
独立電源＝オフグリッドの家

2015年6月13日
どう？ 古民家暮らしって？

2015年5月6日
冬の温熱調査合宿報告

2015年3月13日
伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！

2015年1月6日
私はこう書きました！ 木の家ネット会員が出したバブコメ

2015年1月1日
改正省エネ法についてのパブリックコメントを出そう！

2014年12月12日
改正省エネ法で、土壁はどうなる？

2014年11月26日
無くなつては困る！ 刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション

人気のある記事

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
18件のビュー

家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ
15件のビュー

設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
11件のビュー

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
10件のビュー

工務店・西條正幸さん(バイオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて
8件のビュー

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー
8件のビュー

大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事がしたい！
7件のビュー

大工・綾部孝司さん(綾部工務店)：原点回帰
7件のビュー

大場江美さん(サステイナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家
7件のビュー

この記事のタグ

日本の山河を守りたい

環境と共生する家づくり

顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

2005年2月25日
緑の日本であり続けるために

2009年4月30日
山里の暮らしがなくなる？

2006年10月25日
その木のふるさとを知る

2007年10月31日
無垢の木を使って森づくりを支える

2010年10月9日
森林・林業・地域再生を目指して

関連する記事はこちら



製材・鈴木禎一さん(あさひ製材)：山の木と住む人との縁結び



第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会



里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）



3.11後を生き抜くコミュニティの力 牡鹿半島福貴浦より



国産材時代到来か？ 最新動向を検証

北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
岩手県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県
宮城県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
山形県	関東（東京） 東京都	長野県		和歌山県	香川県	
					愛媛県	
					高知県	